

# TOREK 自然農法 ホットニュース

第 279 号 2021.7.25

健康な地球に生きる健全な人間の姿を求める「岡田茂吉師」が提唱した「自然農法の原理」に基づき、「無施肥無農薬栽培」を通し、生産、流通、消費者がお互いの現場を理解し合える、安全で豊かな「食」の普及に取り組んでいます。

## TOREK 東中野頒布会！宅配

スタッフ 藤井千亜紀

昨年に引き続き、宅配による頒布会を7月11、12日にさせていただきました。遠方に住む親ごさんに元気になってほしいとの想いで贈られる方や、追加注文をたくさんして、地元の友人とシェアして下さる方、初めてお申し込みいただく方も増え、昨年よりも大勢の方に自然農法の食材をお届けできましたことがとてもうれしく、心より感謝申し上げます。

長雨の影響で野菜が足りるのか？お天気をみながら日々取り組み、宅配だからこそ、いつもよりもさらに品質面や梱包への配慮など、生産者の皆様には大変お世話になり、食べる方のことを思う気持ちには頭が下がりました。ここまでして下さるからこそ、食べた方が喜び、感動されるのだと学ばせていただきました。感想の一部をご紹介します。

「届いた箱を子供たちが開けて、早速きゅうりにかぶりついています。自然農法なので安心です」と微笑ましい写真を送っていただきました。

「ニラと卵でニラ玉にしました。半熟の卵のところを食べても、市販のものとは違い、かゆくならず、何より美味しく、気力が回復しました」

「カレーにし、特にジャガイモが市販のものとは違い、優しい味がしました」  
「身体がつらく、会社を休んでいたその夜に届いたので、すぐにトマトを食べることができて有り難かったです」

「果物の無施肥無農薬栽培はなかなかないので、プラムやブルーベリーがうれしくて、家族で美味しくいただきました」

「家に帰って冷蔵庫を開けたら、宝箱のようでした」

「ナスが本当にきれいで光っていました。大切に食べなくてはと思って、焼きナスにして冷凍。人参とモロヘイヤをゆでて冷凍にしました」



新たな企画として、3種のお茶のミニパックをお知らせに使っていただきたくて、しおりと共にセットしたのも野菜と一緒に送らせていただきました。「自然農法のお茶が当たり前になっていて、人にお茶をお渡しするときに、なんと伝えればいいのか分からなくなっていました。無農薬のお茶ですとかお話しできていませんでしたが、これをきっかけに、体の調子を整えてくれること、実際に良い変化があったことをお伝えしたいと思いました」との声も届きました。

また「自然農法を続けていくには、気力がないとやれないよね。激励してくれる人がいるから気力が持つようなものだ(笑)」と生産者同士で笑いあったと伺いました。

当初、対面販売ができず残念な気持ちでしたが、食べる方のことを想い、田畑へ通って下さる生産者、大切に調理をし、味わい、喜びの声を届けて下さる方々、生産者からお預かりした野菜や加工品をより良く届けたいと梱包に想いをこめたスタッフのおかげさまで、LINE やメールというスタイルで喜びや感謝の気持ちが行き交った、素敵な宅配頒布会でした。

## 各地の田んぼ報告

TOREK 自然農法普及員 野中康次

今年度の田んぼの様子です。栃木の五十嵐さんは、田植え前の5月22日に訪問し、苗は順調に仕上がりに、その後、家族で田植えができたとのことでした。

長野の堀さんからは「苗に問題あり」とSOSを伺って、TOREKの有志メンバーで、補植から初期除草のお手伝いをさせていただきました。参加者も無事稔ることを祈る気持ちで取り組むとともに、生産



者の強い気持ちをより感じさせていただきました。

福井のコスモファームは、6月末で除草2回終了して、新しいメンバーも増えて、頑張っていました。同じく福井の富田さんはこれからの田植えで、1日も早く無事にできることを願いました。

石川のよしたい農園では、コロナ騒ぎのため、森さんに1年半ぶりにお会いできました。気持ちの上では、しっかりハグをしたくらいでした。雨が少なく、田植えに影響があるなか頑張っていました。同じく石川の山下さんの田んぼには、農林22号が元気に植え終わっていました。

千葉県勝田台の熊澤さんには訪問できませんでしたが、「鎌ヶ谷 LABO」というグループの取り組みで、家族連れで小さい子供もお手伝いしながら、手植えで無事できたと伺っています。静岡の右原さんの田んぼには、除草SOSの連絡から、市川生産グループで援農に行ったとのこと。熊本と宮城には行けていませんが、なんとかと考えています。

現在、自然農法のお米を頂けることが当たり前のように恵まれています。それゆえに生産現場を皆さんへ見せて、聞かせて、伝えていく大切さを感じる今日このごろです。

## 木島平援農で学んだこと

千葉県 熊澤里紗

弥生会の前期研修会で、「これからの50年で自分ができることをしていきましょう。今は自然農法の後継者がいない。今あるものをもっと広めていこう」とお聞きし、両親と兄が取り組んでいる田んぼが思い浮かびました。自分たちの日常や仕事のなかで、田んぼを思うように取り組むことができず、満足のお米を育てられていないと聞いていました。自然農法40年という歴史ある田んぼなのに、もったいない、もっと自信を持って広めていきたい、たくさんの人に食べてもらいたいと思うようになりました。私は仕事に執着がなく、今はまだ責任をおっている立場ではないので、人生の融通がきくし、「私が田んぼをさせていただきたい。私しかない！」と思いました。

そんななか、6月28日に堀さんの田んぼに援農させていただくという話を偶然聞き、自然農法を最前線で取り組まれている堀さんから学ばせていただきたいと思い、参加いたしました。

出発前に、発行されたばかりの体験談集に掲載されている堀さんの体験談を学び、改めて岡田茂吉師の自然農法に取り組むための姿勢や志しを学ばせていただき、自分の知識のなさや志しの低さを実感し、もっと気をひきしめて取り組まなくてはいけないと強く思いました。

今回の援農では、主に除草を行いました。堀さんの田んぼはとても美しく、土も柔らかくて、稲がのびのび育つ環境が整えられていると感じました。雑草を抜くときも、土が柔らかいので根元からスリットと取れて、除草をしていて気持ちいいと思いました。自然農法の基本である「土を尊び 愛し 汚さない」の実践はこういうことなんだと学ばせていただきました。堀さんの「やったことは裏切らない」という言葉が魂に刺さりました。取っても取っても減らないと思っていた雑草たち、それでも自然農法に気持ちを合わせて除草に取り組めば必ず身になること、あきらめず向き合おうと希望を与えていただいた気持ちになりました。このような機会をさせていただき、感謝申し上げます。

今回のことを無駄にせず、自然農法を多くの方に知っていただけるように、食べた人に幸せになってもらえるように、微力ではありますが、進歩向上を心がけ、貢献させていただきたいと思います。



## お知らせ (変更の可能性あります)

★ 自然農法頒布会 8月30日(月) 鎌ヶ谷会場 11:00~15:00 (売切れ次第終了)

お問い合わせ先：編集部 針貝 FAX: 03-3369-3324 e-mail: [naturefarming@torek.jp](mailto:naturefarming@torek.jp)  
TOREK活動のホームページもご覧ください。 <http://www.torek.jp>